

○議員（４番 春田 新一君） 時間がなくなりました。本当にありがとうございました。これで質問を終わります。

○議長（小川 廣康君） これで春田新一君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩とします。再開を１１時１０分からといたします。

午前10時52分休憩

午前11時08分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。６番、吉見優子君。

○議員（６番 吉見 優子君） おはようございます。一般質問に入る前に、けさほど、大阪府の北部の震度６の地震がありましたが、被害がないことを祈りながら、質問させてもらいたいと思います。

まず、一般質問に入りますが、きょうは４点質問させていただきます。

まずは、１点目は、トンネルの表札及びトンネル内の照明の整備についてお尋ねいたします。

トンネルの表札といいますか、名前が汚れていて見えにくく、また名前そのもののプレートが剥げ落ちているところもあり、トンネルの名前がよくわかりません。そしてトンネル内の照明についても暗く安全性が心配されますが、いかがお考えでしょうか。お尋ねいたします。

２点目は、ガードレールの清掃及び道路の案内板についてお尋ねをいたします。

ガードレールについては、緑色のコケに覆われてガードレールの色、白色の体をなしていないところが多く、安全性が危惧されます。また、道路の案内板については、字が小さく、消えていたり、コケとほこりで汚れていたり、また必要などころには案内板はなく、現状に適してないところがよく見受けられます。再点検と改善を要望いたします。

３点目は、粗大ごみの回収について。

日常生活の中でめったに出ない粗大ごみ。高齢化も進み自己解決で焼却場まで持っていくのは無理があります。また、不法投棄の原因にもなると思います。粗大ごみの回収は市のほうで回収するべきだと思っておりますが、市長の見解をお尋ねいたします。

４点目は、ジェットフォイルの乗船についてでございます。

ジェットフォイルの１便に乗船するときには、長い通路を通った後、乗船するまでの間には屋根がありません。乗船の際、雨・風のときはずぶぬれになり大変困ったと苦情の申告が来ております。移動式の屋根を設置すべきだと思います。

以上、４点について、市長の見解をお尋ねいたします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 吉見議員の質問にお答えいたします。

まず、1点目でございますけども、トンネルの表札及びトンネル内の照明等についてでございますけれども、対馬島内には、国道のトンネル21カ所、県道のトンネル33カ所、市道のトンネルが19カ所ございまして、国道と県道のトンネルにつきましては、県振興局において、照明も含め、順次改修工事が進められているところでございます。また、市道のトンネルにつきましても、平成29年度より調査を実施しているところであります。

トンネルの銘板につきましては、汚れやなくなっているところがあるとの御指摘でございますけれども、汚れは経年によるものだというふうに思われます。また、なくなっているものにつきましては、長崎県では、平成25年の落下事故を受けて、全トンネルを調査した結果、老朽化による落下の危険性があるものについては、取り外したとのことでございますが、表示方法については、現在検討中とのことでございます。

平成26年からは落下の危険性を考慮し、トンネル入り口の上部に設置するのではなく、入り口の手前にポール式の銘板を設置しているとのことでございます。また、既存の銘板の清掃につきましては、今後検討させていただきたいとのことでございますので、市道のトンネルの銘板につきましても、同様の対応をしてみたいと考えております。

次に、トンネル照明についてでございますが、国県道のトンネルにつきましては、平成25年度より改修工事とあわせてLED化を進めているところでございます。トンネル照明が点灯してなくて暗いという御指摘であります。このことは、自動調光装置によりまして、トンネル内の照度を調整している関係で、消灯している器具もあるかと思われそうですが、中には球切れしている場合も考えられます。今年度も調査を実施し、取りかえるよう検討しているとのことであります。

なお、市におきましても、調査結果に基づき、平成31年度より改修工事とあわせて、順次LED化を進めてまいりたいと考えております。

次に、ガードレール及び案内板の点検についてでありますけども、対馬市の主要な路線であります国道382号線及び主要地方道は近年の韓国人観光客の急増により、大型バス及びレンタカーが増加し、交通量が増加しているところでございます。そのため、韓国人観光客による交通事故等も増加しており、韓国人観光客への交通マナーの徹底及び幹線道路の早急な整備、あわせてわかりやすい案内板の必要性が求められているところでございます。

まず、ガードレールの維持管理の件でございますけども、議員御指摘の主な路線のガードレールの汚れ等につきましては、県振興局におきまして、定期的に汚れのひどい箇所を中心に、順次清掃を実施しているところでございます。しかしながら、延長が長く人力での作業でもあり、進捗率が上がらないのが現状であるとのことでございます。

ガードレールは、本来通行車両の防護を目的とした交通安全施設ですが、ドライバーによる路側の確認等において、地元のドライバーはもとより、外国人ドライバーの皆様にも気持ちよく運転していただくため、今後においても、順次清掃を実施していきたいとのごことでございます。

次に、案内板に関する質問でございますが、平成23年に島内一円の誘導案内板等の現状を調査し、292基の整備を計画し、平成24年度から誘導案内板の新設やつけかえなどに取り組み、これまでに153基の整備を行ってまいりました。しかしながら、議員御指摘のとおり、まだまだ整備が必要な箇所や文字が見えづらい箇所がございますので、随時案内板の状況をチェックしつつ、整備等を行ってまいりたいと考えております。

次に、3点目の粗大ごみの回収についてでございます。

現在、本市においては、粗大ごみの回収は行っておらず、対馬クリーンセンター、中部中継所及び北部中継所に、排出者みずから持ち込むか許可事業者へ依頼する方法で処理をお願いしているところでございます。

粗大ごみ回収の御質問につきましては、平成17年度第3回定例会から平成19年の第4回定例会までに、同様の一般質問がっております。市といたしましては、回収方法等検討した結果、平成19年第4回定例会において、新たな負担を伴う新規事業は大変厳しい状況であり、粗大ごみについては回収しないこととし、今後においては、民間の廃棄物処理営業許可を持つ業者に有料にて処理を依頼するか、個人による対馬クリーンセンターなどへの直接持ち込みにより処理をお願いしたい旨答弁しております。

しかしながら、当時から10年を経過し、高齢化が進む対馬市の現状を考えますと、粗大ごみをみずから処理場まで運ぶことができない高齢者、車の免許を持っていない方等にとりましては、粗大ごみの処理は苦慮する事案であり、最近市民の皆様からも担当課にも数件の相談がっております。

また、県内の市町の中には、佐世保市など4市が申し込みによる個別収集を有料で実施していると聞いております。今後対馬市では、高齢者世帯の増加は避けることができないことから、粗大ごみの搬出が困難な世帯の増加も予測されるため、粗大ごみの回収については、本市にとって、どのような方法がよいのか、シルバー人材センターの活用なども視野に入れながら、研究してまいりたいというふうに考えております。

次に、4点目のジェットフォイルの乗船についてでございますが、あわせて国際ターミナルも建設予定でございます。完成いたしますと、現在の国際線が着岸しているところが、国内線埠頭となり、フェリーはもちろんのこと、ジェットフォイルにつきましても、浮き桟橋を介して乗船できるようになる予定でございます。

現在は、潮の干満の関係でジェットフォイルの乗船には移動式のタラップを使用しておりますが、1便の乗船岸壁、先のほうでございますね、ここにつきましては、国際線も利用している関係上、タラップを移動するためのスペースが必要でありますので、議員御指摘のスペースに屋根を設置することは困難とのことでございます。

一方、移動式タラップにつきましては、運航事業者等において整備されるべきものであると考え、運航事業者である九州郵船並びに代理店である博多海陸に対し、事情を説明し、雨よけのための天幕等の設置を要望したところ、設置する方向で前向きな回答をいただいております、今月中には設置を完了できる見込みであります。なお、全面を完全に覆うことは構造上難しいとのことでありますので、御理解をお願いいたします。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） いろいろ前向きな回答をいただきましたけれども、ちょっと少々心配でございます。

今も市長のほうからも答弁がありましたが、私が厳原からここに来るまでの間トンネルが9つあります。その9つの中の内訳を申しますと、草がもう覆いかぶさって、トンネルそのもののプレートが見えないところとか、剥げ落ちている、市長はそれを危険だから外しているということでもございましたけれども、一応そういうことです。

それからコケなどが覆われて汚れているのが5件、唯一よく遠くから見えるのが新濃部トンネルなんです。そして厳原トンネルも新しいんですけれども、もうすすがついていて見えにくい状態も出てきております。

市長も今答弁されましたが、島内には何本のトンネルがあるかということで聞いてみますと、国道が21本、県道が33本、市道が19本、合計73のトンネルがあるようでございます。この短い厳原から豊玉まで来る間の9本のうちに、そのような状況が出てきております。全体的に見ますと73本ということでございますが、どのくらい汚れているのか、危険なのか心配でたまりません。そういうことで、続けて検査をしていただきまして、善処をしていただきたいと思います。

今から先は、トンネルの名前は横につけるということを言われましたけれども、私、去年、釜山のほうに行ってみましたが、トンネルがすごく気になっておりまして、行ってみたら、トンネル入り口のアーチがありまして、ここにトンネルのアーチの上につけるのではなくして、今の状態でつけるんじゃなくて、ここからちょっと下げて、ここにぱちっと下げてしてあるんですが、すばらしく遠くから見えて、これはいいなと思って帰ってまいりましたが、今から先はそういうやり方じゃなくて横につけるということでございますので、それは参考にならない

のかなと思っております。

トンネルの中なんですけれども、暗くって、このごろ韓国の方もサイクリングされる方が多くて、トンネル通ってあっても、トンネル内薄暗くて危ないんです。そして歩道を歩いてある方を見ていると、やはり暗いので、歩道の幅ちよっとしかないのに、ちょっと足を滑らして車道にでも落ちられたら、怖いなと思いながら、もちろん徐行はして通っているんですけれども、心配でなりません。

そして、市長の答弁で要約すると、自動的にトンネル内の照明はされているような感じで聞いていたんですけれども、中には電球の切れているところもあるかもしれないということです、それは早目に早く電球の取りかえというんでしょうか、消えているところは取りかえてもらいたいし、LEDのほうもお金もかかるでしょうけれども、明るさは全然違いますので、してもらいたと思いますが、LEDと普通の電球と、普通の電球だったら電気代が高い、普通電球は買うのは安いけれども、電気代は高い。LEDは買うのは高いけれども、電気代は安い。大体比較しまして、比較というか、大体どのくらいでその差を取り戻すのか、5年とか10年とかわかりませんが、そのような調査をされておりましたら、お聞かせください。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、トンネルの中の照明でございますけれども、これまでつけてきたナトリウム灯という電気でございますけれども、これは1個1万2,000円でございます。そして寿命が6年間ということでございます。そういうことで、年間に換算いたしますと、年間2,000円ということになります。

一方、LED灯の1個の値段は1機当たり約9万円するということで、寿命は15年程度ということでございますので、これを1年間に換算いたしますと6,000円ということになります。

確かにこの電球だけを見ますと、2,000円と6,000円でございますので、これまでのナトリウム灯が安いということにはなりますけれども、ただ電気代が3分の1になると、LEDにつきましては、そういうことになりますので、これを最終的にはどのくらいLEDのほうが安くなるかというのは、そこまでは試算しておりませんけれども、電気代は3分の1になりますけど、取りつけるときには若干高目であるというふうに御理解いただければと思います。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） よくわかりました。かなり高いということは大体わかっておりましたが、できれば明るいから事故が起こらないように、危険性を感じていますので、なるべき財政の許す限りしていただきたいかなと、要望しておきます。

それと、2番目のガードレールの関係ですけれども、今、市長のほうに写真を届けております。

トンネルのプレートの外れている写真と、草が覆いかぶっている写真としております。そして、この一般質問、それとガードレールが、本当もうモスグリーンというか、木の枝と変わらんような色をしております。その後、私が一般質問してから、今日まで、一般質問状を出したときから何日間かたっておりますけれども、実際本当に掃除をしているとかいろいろ言われましたけれども、来られる間に見られたときに、正直なところどのように感じられたか、教えてください。本当にやっぱり汚いとか、正直な意見を教えてください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 確かに場所によってかなり差はあると思いますけども、湿度が高い山の谷間とか、そういうところにつきましては、やはりコケがついた箇所があるなというふうに感じているところでございます。こうしたところにつきましても、やはり、先ほども答弁いたしましたように、これは人力での清掃作業になりますので、多少時間はかかると思いますけれども、これから整備をしまいたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） ありがとうございます。

それというのも、やはり観光客をいろいろ交流人口ふやすためにしてありますが、観光客の方が対馬のほうの道路状況とか、今言ったガードレール、トンネル照明等含めて、どのような印象を持って本土なり、韓国のように持ち帰られまして、どのように、対馬は道路がこうやったよ、ようやったと、そんなことを私すごく危惧しておるんです。いい印象で帰ってもらいたいと思うものですから、これは毎日国道を多分観光客通られますので、なるべく早目に改善をお願いしておきたいと思います。

それと道路の案内板なんですけれども、今、写真でお見せしております、この3番目です。これです。これを、ここを通ったときに、私選挙のときに通ったんですけども、この分岐点は唐舟志に行くところと比田勝に行くところでございます。全然わからなくて、そして、立っているのも低いんです。皆さんおりてどうかな、こうかなといういろいろ見たんですけど、よおとおりて見てからわかったというような感じです。まずは、これを1点早目に改善していただきたいと要望しておきます。

それから、粗大ごみなんですけれども、今、市長は名前を出されませんでしたけれども、私が前回、市会議員をさせてもらっておるときに、平成16年の3月から21年の5月31日までの5年3カ月間市会議員をさせていただいておりました。このときに、粗大ごみの回収について一般質問を3回しております。

そして、もう一つ武本哲勇議員さんも1回質問されておまして、計4回の質問をしております。このときは、松村市長さんでしたけれども、そのときの回答は、「今後の高齢化社会を考え

たとき、粗大ごみ収集には、住民サービスの一つとして検討課題と認識しております。ぜひ検討させてください」ということで終わっております。

2回目の私の質問のときは、答弁として「避けて通れない問題、課題の一つとなっていること、検討をもう少しさせてください」なかなか進歩していません。3回目は、「検討課題としておきたいと思います」ということで終わっております。

そこで、私もまた議員になりましたのが、去年の6月1日からなっておりますが、やはり市民の皆様からの要望が多いんです。ぜひとも、粗大ごみは市のほうで対処をしていただきたい。そして、平成16年3月のときには、前々市長の松村市長さんも高齢化が進んで、4人に1人だから云々、先のことも考えられるということ、言ってありましたが、もう現在は約3人に1人の高齢者なんです。そういうことを考えたときは、やはり早目に粗大ごみの回収をしていただきたいと思っております。

そして、私もいろいろと県内の粗大ごみの回収してあるところを探して、精査、調査してみました。そしたら、長崎県には13市あります。その中で、粗大ごみの回収、行政として何らかの形で回収してあるところは、壱岐市、五島市、長崎市、佐世保市、松浦市、西海市、諫早市ということで、13市の中7市が回収をしております。そしてその中には、やはり具体的に品目を掲げてあるところとか、サイズの大きさ、いろいろ含めまして、それを出すときは、粗大ごみというシールを張って出すということになっているようでございます。

それぞれ市によって、やり方が違うようでございますが、対馬は対馬のやり方でぜひともこの回収をしていただきたいと思います。先ほども言いましたように、粗大ごみはしょっちゅう出すものではありませんので、何カ月かに1回かにしていただきたいなと思います。

そして、私たち年齢いきますと、終活といいますか、やがてということで、身の回りをきれいにしておきたいなということで、整理をよくします。そのときに思わずやっぱり粗大ごみが出ます。今からそれこそ高齢化率が対馬は高いわけですから、そういう方大いにあるんじゃないでしょうか。ほかの方に聞いても、そうだ、そうだという声をよく聞きますので、ぜひとも粗大ごみを対馬市で何らかの形で結構です。どうかしてもらいたいと思いますが、どうぞ市長の見解をお尋ねします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） この粗大ごみの答弁をする前に、先ほどありました案内板の件ですけど、黄色い案内板なんです。これはこちらのほうで調べてみたときに、どうも民間の方が設置をしてある看板だったということでございます。そういうことで、今後はいろんなその方面の方々と協議をしてまいりたいというふうに考えております。

次に、粗大ごみの回収の件でございますが、先ほども答弁の中で申しましたように、やはり私

も、これまでは財政的な関係等があったものというふうに理解しておりますけども、これだけ高齢化が進みますと、議員おっしゃられるように、やはり高齢者の方々にとっては、大変苦慮する問題であるというようなことで、まだ具体的な方法というのは申し上げられませんが、今後、シルバー人材センターを活用したこととか、今、議員もおっしゃられたように、一月1回、二月1回とか、いろんな考えられる面で、実施できる方向で前向きに、このことは研究をさせていただきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） 私も過去3回こういうこと質問したときには、やはり合併してすぐだったものですから、前市長、松村市長さんたちも財政的な面も少し発言されておりました。だから、それから合併後15年くらいたちますが、そして、韓国の方も、観光客もかなりどんどんふえて、財政的にはかなり前の第2の夕張かと言われるところから比べますと、行政のほうがいろいろと考えてくれて、職員の減とかいろいろ考えられて、今は幾らか余裕ができていると言ったら悪いかもしれませんが、そういうことも、韓国の方も観光客が多いので、せめて職員も含めて、市民の皆様はわずかなお金といったらなんですけれども、大変困っておりますので、今、市長からいい返事はもらいましたけれども、早急にこれはしていただきたいと思いますので、私のこれは本当の願いでございます。私も4回目のこれ質問でございますので、これをなくして私は今回議員の任務は全うできればいいかなと思っておりますので、ぜひとも検討を。

そして、市民の方が言われるのが、前シールがあったんです。そのときの制度よかったねという話もされるんですけれども、それは前のことですから、それはそれでいいですから、新しく粗大ごみの回収について、早急にこれは検討していただきたいと思います。よろしいでしょうか。はい。

次にヴィーナスの関係ですけれども、市長の答弁を聞いておりますと、タラップと岸壁に入ってくると、2つに分けますと、岸壁のほうも含めて、九州郵船なりそういった博多海陸なりその業者がするのだということを、私そのように聞き取れたんですけど、そうなんでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） タラップ、移動式タラップの天幕でございますけども、これについては九州郵船と、その代理店であります博多海陸さんが、その状況等を理解していただきまして、設置するというようなことで、先ほども申しましたように、今月中には完了ができる見込みであるということまで回答いただいております。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） それは、タラップだけと岸壁におりたとき、それも含めてですか。

私はそのように聞いてないんですけども。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） ジェットフォイルの乗船場までは通路がありますけども、ここには雨よけのカバーがしてある。そこから先が今現在、吉見議員さんからいただきました写真でも、傘をさして乗船しておりますけども、この間に移動式のタラップの上に天幕をかける、いったことで今度は傘をささずにジェットフォイル等に乗船できたり、またおることが可能となるいうふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） ちょっと私が言うことと、私はっきりしない。タラップは九州郵船さんと博多海陸さんがつけると、それからタラップおりたときに、上るときといいますか、その平らなところですよ。通路ずっと通ってきてから、それから平たんで船まで行きます。船からタラップ乗るところは九州郵船さんということを聞いております。

それから、おりてからの平たん、この通路に至るまでの10メートル弱ありましょか、この部分は、私、県と聞いておりますが。市のほうの説明もそのように聞いておりますので、もう一回回答をお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今、この写真いただいております。これは1便の写真ですよね。1便、ジェットフォイルが先のほうにするときは、このときには、この通路からジェットフォイルまでの間が雨にぬれるというようなことで、ここには移動式のタラップを置きますよということで、今後は雨対策ができたということになります。

そして、恐らく議員さんがおっしゃられているのは、2便のほうの分じゃないかなと思っているんですけども、今のターミナルの前のことじゃないかなと思っているんですが、どうなんでしょう。

○議長（小川 廣康君） ちょっと整理します。6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） 私、2便のほうで質問してないです。1便と言ったんですよ。

1便のほう、長い通路を、トンネルを出たときと言ってますよ。話がくり合わないなと思って。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 冒頭、答弁の中でも申しましたように、ここには国際線が着岸しております。そういうことで固定式の天幕はつけられない、ということを御理解していただきたいというふうに思います。それで、移動式のタラップに天幕をかける、いったことでお客さんは雨にぬれなくなるようになりますよということでございます。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（６番 吉見 優子君） ということは、１便のビーナスに乗るときは、ずっと長い通路を１００メートルぐらいいきますね、そしてその通路を出たところから、船に乗り上がるまでは全部できるということですね。はい、わかりました。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 担当部長のほうに答えさせたいと思います。

○議長（小川 廣康君） 建設部長、小島和美君。

○建設部長（小島 和美君） 失礼します。

移動式タラップの件ですけど、先ほど市長が答弁されたように、移動式タラップそのものに天幕と側幕を設置するようにしております。それと今、固定式の部分が１１０メートルぐらい行っ
て、岸壁側に抜けて五、六メートルの天幕張っている固定式のやつがあると思うんですけど、移動式のタラップを動かすのに、どうしても余裕で四、五メートルないと干満のときの設置ができないということで、移動式はもちろん天幕張りますけど、固定式との間に四、五メートルの張れない状況の区間があるということになります。

○議長（小川 廣康君） ６番、吉見優子君。

○議員（６番 吉見 優子君） そういうことじゃないと、私は考えております。今、言ったように、タラップは九州郵船さんのほうが——初めから戻ります。私が４月に行政のほうに、こんなふうに苦情があるからしてくれませんか、トンネル抜けた後は、乗るまでは青空天井ですから、雨が降って本当困るということがあったので、どうにかしてくれませんかと言うて市役所のほうに行きました。そしたら市役所のほうから、すぐそれは九州郵船さんのほうに連絡がいったみたいですよ。

九州郵船さんのほうは、即それを聞いて、経営が困難な中、企業努力ですよ、このタラップだけは、今、見積もりをとってできるようにしております。だから、私もこの議会が済むときには、もうできているんじゃないかなと思っております。

そして、おたくのほうの説明では、岸壁のほうは県だからということと言われましたけれども、その後の、県だからと言われたならば、県のほうにそういう要請はされているんだろうと思いますけども、県のほうの回答とかはどのようになっているのでしょうか。

○議長（小川 廣康君） 建設部長、小島和美君。

○建設部長（小島 和美君） 固定式の今通路に張ってある天幕と側幕の部分なんですけど、当然移動式との間に、先ほど申し上げましたように、五、六メートル空白の部分、雨がしのげない部分というのがあるんですけど、その分についても県のほうとお願いをしたんですけど、今の部分を延長してということになったんですけど、それが実は先ほど申し上げましたように、移動式のタラップを岸壁の方向に向かって前後にセッティングするのに、幾らかの余裕がないとそこまで

天幕を張ると移動が困難になるということで、どうしても少しあきますということだったんです。

それで、うちのほうも逆に今度は、3メートルないし5メートルの移動式の天幕はどうにかならないかというような検討もしたんですけど、そういった部分もちょっと困難な状況じゃなからうかと、今、判断はしております。

○議長（小川 廣康君） 6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） 雨が降ったらどんなに大変かということも、私は市民の方から聞いただけで、現場を見ておりませんのでわかりませんでしたから、雨の降る日にとっても構えておりましたら、雨の降る日が来ましたので、朝6時に起きて現場に行きました。そして、市長にも見てもらうように、3枚、合計5枚の写真を撮ってまいりましたが、本当に困ってあるんです。

そのときは、偶然にもよかったんですが、車椅子のおばあちゃんが、お客さんがおられまして、その方には付き添いの方が3人おられました。そして、タラップに乗る間の道、この間はもちろん一人の方が傘をかけて、おばあちゃんはタオルを頭からかけられて、そしてタラップに上るまでを車椅子に乗っていたんです。

そして、車椅子に乗るときは、もちろん九州郵船さんの方の船員さんの方が手伝っていただいて、乗られておりましたけれども、このときは、満潮も干潮も変わらんやったもんで、平たんでした。だから、それでも大変でした。おばあちゃんは全然傘はなく、もうずぶぬれですよ。

そして、これは平たんだからいいかなと思って、幾らかと思って、満ち潮だったら斜めになります。これまた大変なことだと思います。そして、これ見られたときわかるように、道はびちゃびちゃですよ。対馬からこのときは月曜日でしたから、乗客は若干少なかったように思いますけれども、キャリーバックとか、いろいろ持っていかれて、傘がさせるような状態じゃないんです。対馬のお土産をたくさん買っていってもらって、ずぶぬれになって、印象どうなるんですかね。そういうのを含めまして。

そして、九州郵船に聞きましたら、九州郵船さんは、今さっき言ったように、タラップのところは20万かかったと、それでも大変だったけども、博多海陸さんと折半して10万ずつ出すようにして、入札済まして注文してあります。やがてできますという返事を、10日ぐらい前にいただきましたから、議会が済むころにはでき上がるんじゃないですかね。

そしたら、タラップおりた後、10メートルぐらいはずぶぬれなんです、また。今、言われたように、5メートルあきます、3メートルあきますと言われていますが、よく九州郵船さんと話し合っていてくれませんか。私は、そこ辺がちょっと言われることと、九州郵船さんが言われることと、市のほうの言われることが一致しないんです。

私も月に何日間ぐらい雨が降るかなと思って、測候所に行ってみたんですけども、測候所はもうありませんでした。合同庁舎のところ、合理化で、だから月に何日雨が降るかということは調

べることはできなかったんですけども、月に3日とします。そしたら、朝の1便に乗られる乗客の方が大体平均して100人ぐらいだそうです。そしたら、1日だけの雨じゃないかと判断されるのか、1日で100人の方が雨の中、乗船されるんだと、そういう考えです。それを月にしますと、月に3日間の雨だったら、1日100人で、300人の方が雨にさらされるんです。また、1年、2年と考えると、そのようになります。3,600人、7,000人になります。

そして、このターミナルは31年度完成です。31年度の4月、今30年なんです。あと2年間の間、このようにしておくのか、住民サービスはどうなるのか、よく考えてもらいたいと思います。工期そのものが完成が早まることはありません。遅くなることは常でございます。

そういうことを考えると、これも今から梅雨に入って、もう入っておりますけれども、1日も待ったなしだと思っております。九州郵船さんが本当努力して、頭が下がる思いです。もうできる、タラップ上る間はできますと言われて約束していただき、入札で10万もしとるということですから、では市のほうはどのように、住民サービスというか、九州郵船さんが努力されておるということに関してどのように思われているのか、ぜひともお願いしたいと思います。最後になりますので答弁をお願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほど、建設部長のほうも答弁いたしましたように、今、吉見議員からいただいております、この写真に写っているここ、ここについては移動式のタラップができますので、まず、今度は雨にぬれなくなるということを御理解していただきたいと思います。

それと、どうして、ここに移動式タラップが来るんです。（「来るんですか」と呼ぶ者あり）はい。ただ、移動式タラップを移動させないかんと、国際線が入るときに、そういうときのために、担当部長のほうの答弁でも5メートル程度は、どうしても移動させる関係上、物理的につくられませんか、そうすると移動ができませんので、そこは御理解していただきたいというふうに思いますし、そしてまた、今後国際線はこの岸壁が完成いたしますと、今の国内線のターミナルの前のほうに着岸するようになります。

そうしますと、この前には浮き栈橋もできることになりますし、そこら辺の雨よけのカバー等は、またそこがしやすくなるのではないかなというふうに考えているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 時間がまいりましたので、簡潔にまとめてください。6番、吉見優子君。

○議員（6番 吉見 優子君） それはでき上がるのはわかっていますよ。31年度にでき上がるとなっているんですから。それも今から大方2年もかかるんじゃないですかと言いはるわけだから、そこ辺も5メートルぐらいあくと言われますから、ようと九州郵船さんらと話していただいて、善処していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上で私の質問を終わります。